

【倉敷市】 校務DX計画

文部科学省では、令和5年3月に「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の提言を取りまとめ、校務系・学習系ネットワークの統合や校務支援システムのクラウド化等、次世代の校務DXの方向性を示すとともに、クラウド活用を前提としたGIGAスクール環境の積極的な活用により、教職員等の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化が可能であるとしている。

また、令和5年8月の「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）～教師の専門性の向上と持続可能な教育環境の構築を目指して～」においても、1人1台端末の積極的な活用や、汎用のクラウドツールを活用した教職員間での情報交換の励行や会議資料のペーパーレス化、民間企業向けクラウドツールの転用による校務処理の負担軽減を図るとともに、スケジュール管理のオンライン化や、学校と保護者間の連絡手段を原則としてデジタル化するなどの取組を進める必要があるとされている。

本市においては、令和2年度に学籍管理や学校保健、備品管理等の学校事務と児童生徒の成績処理、出欠管理や教職員の出退勤管理等の機能を有する統合型校務支援システムを整備し、また、令和3年度には、情報共有や連絡等に活用できるクラウドサービスのアカウントを教職員一人ひとりに付与するとともに、令和5年度には、保護者からの欠席連絡や学校から保護者へのお便り配信の機能を有する保護者連絡システムを整備する等、教職員等の負担軽減や校務の効率化を図ってきた。

そうした中、文部科学省が令和5年9月に実施した「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストの自己点検結果」を数値化した結果では、倉敷市の平均は338.0点で、岡山県全域の平均得点の336.4点は上回っているものの、全国平均の363.0点を下回っている状況となっている。これらの結果を踏まえ、クラウドツールの一層の活用やFAX・押印の見直し等について、学校と連携を図りながら、以下のとおり校務DXを推進していく。

1 クラウドツールの一層の活用

校務DXチェックリストの自己点検結果によると、職員間の情報共有や連絡におけるクラウドツールの活用や教職員から学校へ提出する事務手続きにおけるクラウドツールの活用など、校内におけるクラウド活用は多くの学校で行われている一方で、学校から保護者へのお便り・配布物等に係るクラウドツールの活用や保護者への調査・アンケート等におけるクラウドツールの活用など、校外の関係者等を対象とした活用については課題がみられる状況となっている。

今後も、ICT支援員や指導主事が学校を訪問し、クラウドツールの活用研修を実施することや、各学校における実践の好事例を教職員間で共有するなど、クラウドツールの活用がより一層推進されるよう各学校への支援に努める。

2 FAX・押印の見直し

校務DXチェックリストの自己点検結果では、多くの学校で、業務でのFAXの使用や、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類がある状況となっている。今後、クラウドツールの活用や書類の電子化等の取組を推進しながら、緊急時などやむを得ない事情がある場合や真に必要な場合等を除き、FAXや押印の見直しを図る。

3 名簿情報の不合理な手入力作業の一掃

校務支援システムの導入により、名簿情報の一元管理や学籍情報との連携のほか、データを出力して利用することが可能になったことに伴い、多くの学校で名簿情報の手入力が省略されているという状況となっている。

今後も、校務支援システムの活用研修を実施することや、各学校における実践事例を教職員間で共有するなど、名簿情報の不合理な手入力作業が生じないように、各学校への支援に努める。

4 次世代の校務支援システムについての検討

現行の校務支援システムは、校務系ネットワークによるプライベートクラウド型で運用しているが、今後、本市のネットワーク環境や校務支援システムの現状分析を行うとともに、文部科学省が実施する「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況に留意しながら、校務系・学習系ネットワークの統合や校務支援システムのクラウド化等、次世代の校務支援システムについて検討を進める。